

第3節 自然災害

近年、台風や豪雨、地震による災害で、山内各所で土石流や倒木が頻繁に発生するようになった。上宮地区では平成28年(2016)4月の熊本地震により、礼拝石北側の岩が崩落した。また、西院谷、東院谷地区においては平成15年(2003)7月、平成21年(2009)7月、平成24年(2012)7月、平成30年(2018)7月に豪雨により、石垣や坊跡の平坦面や後背部の斜面が崩壊する事案が複数個所で発生した。太宰府市、筑紫野市は被害状況の記録化を行い、土のう設置等で応急的な措置を講じてきた(写真3-30)。



写真 3-30 水害箇所の土のう設置 (坊跡石垣)

表 3-1 宝満山被災履歴

年 月	要因・災害名	概要	被災状況	被災箇所(地区)
平成15年 (2003) 7月	集中豪雨	1日315mm、時間104mm 3日間合計382mm	山内100ヶ所以上で沢を中心に土砂崩れ 西院谷・東院谷地区の5ヶ所以上で近世の坊跡の石垣が崩落。特に、座主跡石垣および斜面の大規模土砂崩れ。	西院谷 東院谷
平成17年 (2005) 3月	西方沖地震	マグニチュード7、震度6弱	有智山城の推定大手門跡の石垣崩落	—
平成21年 (2009) 7月	中国・九州北部豪雨	1日277.5mm、時間79.5mm(10分21.5mm) 3日間合計618mm	土砂崩れ	西院谷
平成24年 (2012) 7月	九州北部豪雨	1日161mm、時間52.5mm(10分15mm) 2日間合計268.5mm	座主跡下の大規模土砂崩れ	西院谷 東院谷
平成28年 (2016) 4月	熊本地震	マグニチュード6.7、震度7	山頂礼拝石の北側の岩が崩落	上宮
平成30年 (2018) 7月	平成30年7月豪雨	1日332mm、時間53mm(10分14mm) 2日間合計457mm	西院谷地区1ヶ所、東院谷地区5ヶ所、大谷尾根道1ヶ所の土砂崩れ	西院谷 東院谷

観測所：太宰府アメダス (気象庁)

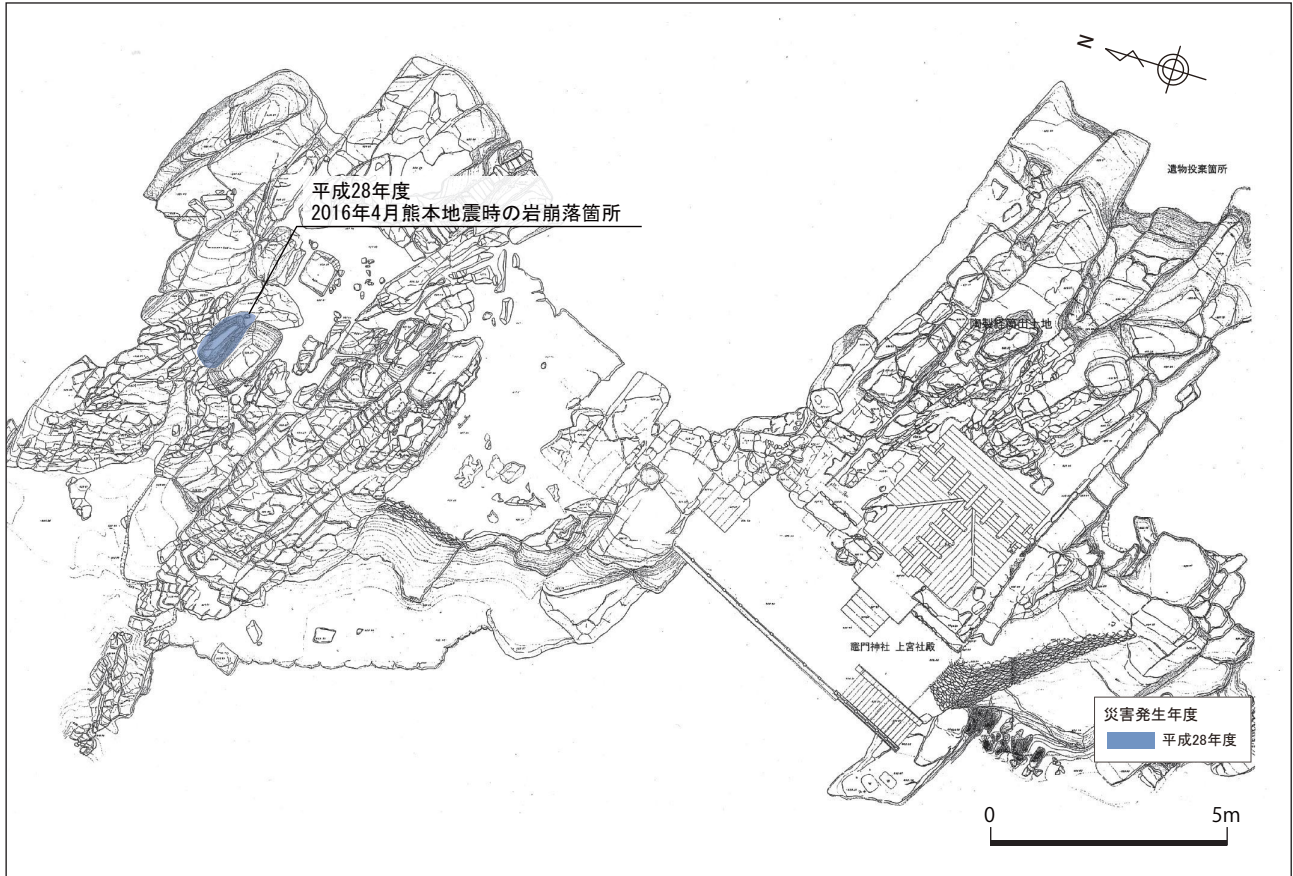


図 3-22 宝満山被災箇所図（上宮地区）

特に東院谷地区は、自然災害による負荷が蓄積しており、遺構への影響が大きい。平成 23 年に被害を最小限にするための方針を模索するために有識者の現地指導を受けた。その結果、宝満山山頂の稜線より南側に降った雨水の大半が座主跡(キャンプセンター)を經由して、登拝道(女道)へ流れ込み、登山者の増加により変状した窪み等を流れて坊跡に流入して石垣の崩落や土砂崩れを誘発しているとの指摘を受け、現状を把握するために雨水流路や変状箇所の把握調査を実施した。その調査結果を受け、平成 24 年(2012)に東院谷地区の応急雨水対策工事を筑紫野市と地権者の龜門神社で実施した。史跡地内の遺構の保全については、雨水対策を抜本的に改善し、崩壊箇所の修復をしなければ崩落を食い止めることは困難である。

遺構の毀損は風水害以外では樹木等の繁茂により根が石垣や石段に貫入し、構造的な破壊を進めていることは特筆しておく必要がある。

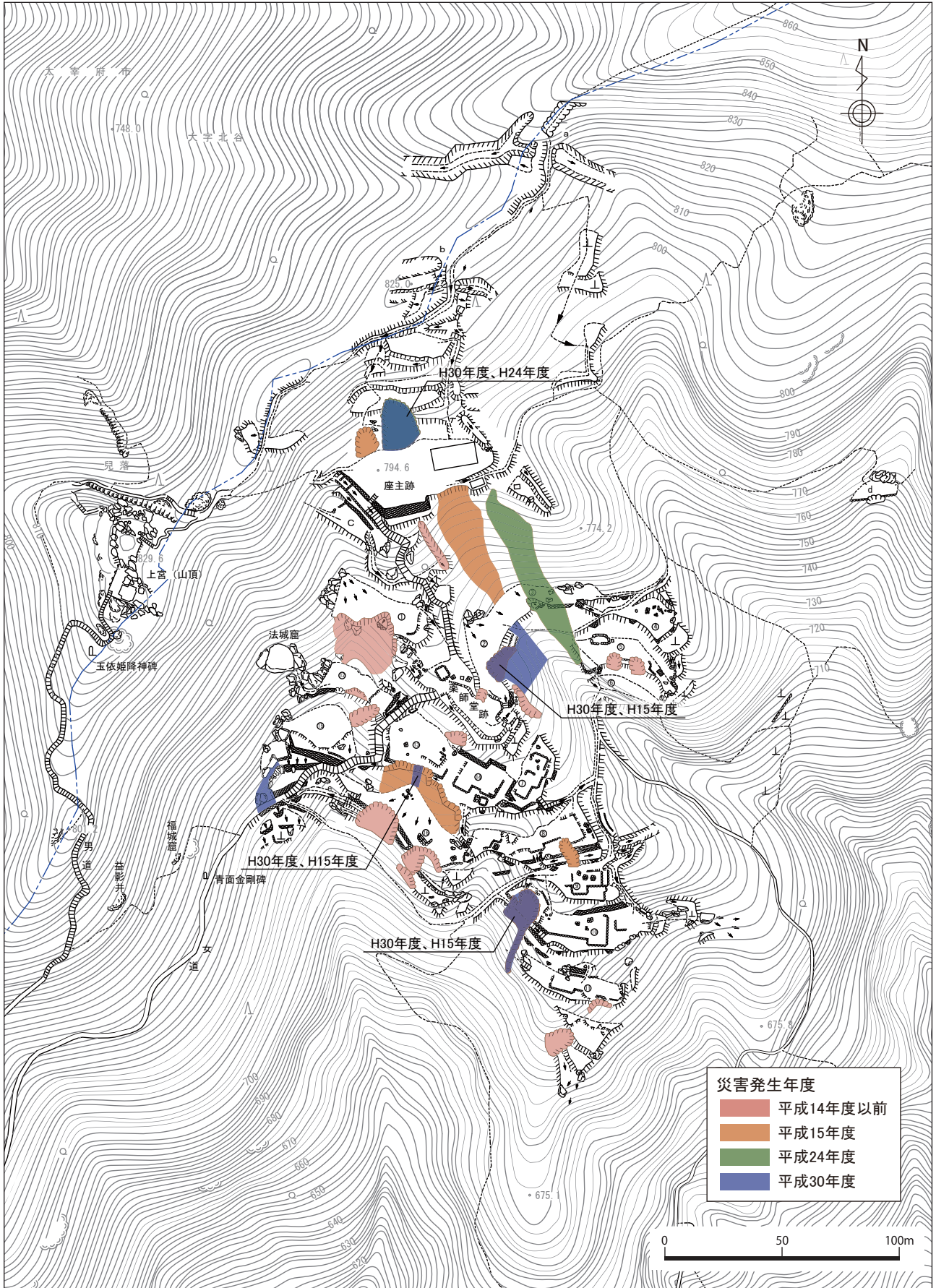


図 3-24 宝満山被災箇所図（東院谷地区）（岡寺良 2008 の図を改変）